

科目ナンバー	D10502	要件	選択必修	授業形態	演習	対象学生	II A III CD
授業科目	子ども学ゼミ(音楽表現)						
実施期	通年	単位数	2単位	授業担当者	青山 雅哉		
【科目の概要】							
「音楽であそぼう」をテーマにして、子どもの活動に適した音や音楽ための環境調査や分析を行う。そして、グループワークにより子どもの活動への音楽表現方法を検討し、様々な音楽表現の可能性を探る。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	子どもの活動に適した音楽表現ができる。						1-d
イ	子どもの活動や環境に適応した曲作りができる。						2-d
ウ	子どもの音楽に対する興味や関心を探り、子どもの感性を高める指導方法について考えることができる。						3-c
【授業の内容】							
				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	ゼミの概要説明・ゼミ登録			月 日	シラバス理解への予習		
2	子どもと音楽の関係			月 日	各自のテーマを考え検討し次回の発表への準備をする。(各0.5時間)		
3	子どもの音楽への関わりを考えた研究テーマの検討			月 日			
4	子どもの音楽への関わりを考えた研究テーマの検討			月 日			
5	各研究テーマの提示・今後の作業について検討			月 日			
6	研究テーマに対する調査分析(1)			月 日			
7	研究テーマに対する調査分析(2)			月 日			
8	調査分析による発表と討議			月 日	テーマ発表への準備(0.5時間)		
9	リズムを主要とした曲作りの基礎(1)			月 日	授業内容の復習とその練習(各0.5時間)		
10	メロディーを主要とした曲作りの基礎(2)			月 日			
11	リズムを主要とした曲作りとパソコン入力について			月 日	グループでの曲作りのためのイメージや構想を提案するためその準備をしていく。(各0.5時間)		
12	子どもに適応する音楽曲の検討			月 日			
13	子どもに適応する音楽活動の検討			月 日			
14	子どもに適応する曲の制作			月 日	曲作りのための各分担としての作業(各0.5時間)		
15	音源・記譜についての基礎			月 日			
16	グループワークによる成果発表(獲得を目指す力の確認)			月 日	曲制作への練習(各0.5時間)		
17	表現方法について(1)			月 日			
18	表現方法について(2)			月 日			
19	制作曲の記譜と録音(1)			月 日			
20	制作曲の記譜と録音(2)			月 日			
21	制作曲の記譜と録音の編集(1)			月 日	編集作業(各0.5時間)		
22	制作曲の記譜と録音の編集(2)			月 日			
23	ちびっこ広場での活動準備(1)			月 日	発表・報告内容の準備のため各担当を決め、そのための研究や準備を行っていく。(各0.5時間)		
24	ちびっこ広場での活動準備(2)			月 日			
25	ちびっこ広場での活動準備(3)			月 日			
26	ゼミ発表会での報告内容制作作業(1)			月 日			
27	ゼミ発表会での報告内容制作作業(2)			月 日			
28	ゼミ発表会での報告内容制作作業(3)			月 日			
29	研究成果冊子作成(1)			月 日	まとめ作成仕上げ(0.5時間)		
30	ゼミ発表			月 日	冊子校正(各0.5時間)		
31	研究成果へのふりかえり			月 日			
【教科書・テキスト】 適時紹介				【成績評価の方法】 研究内容 40% 制作活動の意欲や工夫 30% 研究発表 30%			
【参考書・教材】							
【履修要件及び履修上の注意事項】 「音楽の基礎」 授業を踏まえて発展していく。音楽表現活動への興味と向上心をもって取り組むこと。							
【履修上の遵守事項】							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先： オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	子どもの活動に適した音楽表現力	子どもの活動に適した音楽表現を知っている。	子どもの活動に適した音楽表現を知り身に付けようとしている。	子どもの活動に適した音楽表現が身につけ実践できる。	
イ①	子どもの活動や環境に合わせた音楽の制作力	子どもの活動や環境に適した音楽を考えることができる。	子どもの活動や環境に適した音楽を提示し表現できる。	子どもの活動や環境に適した音楽を考え、それを具体的に制作して表現できる。	
イ②	曲作りへの基礎知識	音や音楽への興味を持ち、その分析が出来る。	音や音楽への興味を持つことができ、その仕組みを理解し身に付けようとしている。	音や音楽への興味から、曲作りへの試みができる。	
ウ①	子どもの音楽的成長への知識	子どもの興味や関心を持つ音楽への知識がある。	子どもの興味や関心を持つ音楽への知見を拓けようとしている。	子どもの音楽的成長を理解し、興味や関心をもつ音楽を様々に分類できる。	
ウ②	子どもへの音楽的指導力	音の環境に興味や関心があり、それを子どもに伝えることができる。	音や音楽への興味や関心を子どもに伝える知識がある。	音や音楽への興味を子どもに伝え感性を高めていく関わり方を考えることができる。	
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					

科目ナンバー	D10502	要件	選択必修	授業形態	演習	対象学生	II A III C D
授業科目	子ども学ゼミ(保育教材研究)						
実施期	通年	単位数	2単位	授業担当者	高岡 昌子		
【科目の概要】							
様々な保育に活かすことのできる保育教材について知り、それらの活用方法と心理的効果そして問題について考える。そして自ら作成した保育教材を用いて実践体験を行い、学びを深める。その中で幼児期の英語体験に効果的な保育教材についても研究して、英語で実践体験も行う。そして多文化共生社会の中で求められる保育教材について考える。さらに保育教材研究においてフィードバックを通して学びを深め、子どもの発達と心理についての学びを深める。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	さまざまな保育教材について知り、それぞれの活用方法と心理的効果について考え、保育教材研究を通して子どもの発達と心理についての学びを深める。						2-d 1-b 1-e
イ	保育教材を作成して実践するための力を養い、主体的に課題を追求していくことができる。						2-c 2-d 4-a 4-b 4-c 4-d
ウ	保育の中で活用される保育教材における問題について考察し、改善方法について自分なりの考えをもつ。						2-d 3-c 3-d 4-c
エ	多文化共生社会の中で求められる保育教材について多角的に考える態度を養う。						2-d 4-a 4-b 4-c 4-d
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	ゼミの概要説明(保育教材の意義・いろいろな保育教材・心理的効果)・ゼミ登録			月 日	シラバスを熟読しておく。(0.5時間)		
2	保育において活用できる保育教材について知識を深める。			月 日	保育教材について情報収集する。(1時間)		
3	保育において活用できる保育教材について多角的に考える。			月 日	保育教材について情報収集し、効果的な保育教材について考える。		
4	保育において活用できる保育教材を多角的に見て、問題や課題について考える。			月 日	保育教材における問題と課題について自ら調べる。		
5	実習で活用できる保育教材の作成に向けて計画をたてる。			月 日	実習やフェスティバルで発表する保育教材について考える。		
6	心理的効果のある保育教材の開発と実践について考える。			月 日	保育教材の開発と実践について検討する。		
7	実習で活用できる保育教材の作成			月 日	保育教材をつくる。(1時間)		
8	実習で活用できる保育教材の作成			月 日	保育教材をつくる。(1時間)		
9	実習で活用できる保育教材の作成			月 日	保育教材をつくる。(1時間)		
10	実習で活用できる保育教材の作成			月 日	保育教材をつくる。(1時間)		
11	保育教材の作成と教材を用いる練習			月 日	自ら作成した保育教材を用いて実践練習を行う。(1時間)		
12	作成した保育教材を用いて発表する。			月 日	自ら作成した保育教材の問題点を把握する。(1時間)		
13	フェスティバルと子ども学ゼミ報告会での発表に向けて			月 日	フェスティバル発表に向けて考える。(1時間)		
14	フェスティバルに向けて計画をたてる グループ討議			月 日	フェスティバル発表に向けて具体的計画を立てる。(1時間)		
15	フェスティバルと子ども学ゼミ報告会での発表に向けての活動 夏休み中の課題確認(獲得を目指す力の確認)			月 日	保育教材を作成する活動を夏休み中にも行う。(1時間)		
16	実習報告とフェスティバルと子ども学ゼミ報告会での発表準備 夏休み中の成果を発表			月 日	夏休み中の成果を発表する準備をする。(3時間)		
17	フェスティバル発表準備 保育教材作成活動			月 日	保育教材を作成する。(1時間)		
18	フェスティバル発表準備 保育教材作成活動			月 日	保育教材を作成する。(1時間)		
19	フェスティバル発表準備 中間発表			月 日	フェスティバル発表に向けて中間発表		
20	フェスティバル発表準備 保育教材修正作業と発表練習			月 日	保育教材を改善する。(1時間)		
21	フェスティバル発表準備 保育教材修正作業と発表練習			月 日	保育教材を改善する。(1時間)		
22	フェスティバル発表準備			月 日	フェスティバル発表に向けて活動する。(1時間)		
23	フェスティバル発表準備 最終確認			月 日	フェスティバル発表に向けて活動する。(1時間)		
24	フェスティバル発表準備 最終確認			月 日	フェスティバル発表に向けて活動する。(1時間)		
25	フェスティバル発表準備 最終確認			月 日	フェスティバル発表に向けて活動する。(1時間)		
26	フェスティバル発表 ふりかえり学習 子ども学ゼミ報告会での発表原稿作成			月 日	フェスティバル発表をふりかえり、ゼミ発表する内容を検討する。(1時間)		
27	子ども学ゼミ報告会での発表原稿作成 フィードバックと修正 冬休みの課題の確認			月 日	子ども学ゼミ発表会のレジュメの原稿作成と発表練習		
28	子ども学ゼミ報告会での発表原稿印刷 発表練習			月 日	子ども学ゼミ発表会のレジュメの原稿作成と発表練習		
29	子ども学ゼミ報告会での発表に向けてリハーサル			月 日	子ども学ゼミ報告会での発表練習(1時間)		
30	子ども学ゼミ報告会で発表			月 日	授業前には子ども学ゼミ報告会での発表練習、授業後には発表をふりかえる。(1時間)		
31	全体のまとめ・ふりかえり・フィードバック			月 日	自らの活動をふりかえり、フィードバックを通して学びを深め、今後活かすことを考えていく。(1時間)		
【教科書・テキスト】				【成績評価の方法】			
必要に応じてプリントを配付する。				出席…30%、授業態度(ゼミ活動への参加・貢献度)…20% 発表・レポート…50%			
【参考書・教材】							
「保育の心理Ⅰ」 林邦雄・谷田貝公昭(監修)、谷口明子・西方毅(編)一藝社 「保育の心理学Ⅰ」 井戸ゆかり編著 萌文書林 「乳幼児のための心理学」 小林芳郎(編著)保育出版社 「教育心理学—保育・学校現場をよりよくするために—」 石上浩美・矢野正(編著)嗚峨野書院 ※その他の参考書は随時紹介する。必要に応じてプリントを配付する。							
【履修要件及び履修上の注意事項】							
保育教材に関心があり、意欲的に取り組みたい者(英語を用いた実践活動も含めて意欲的に参加すること)フェスティバル、子ども学ゼミ発表会に積極的に出席すること。							
【履修上の遵守事項】							
15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。							
【連絡先・オフィスアワー】							
連絡先:		taka@narabunka.ac.jp		オフィスアワー:			

＜チェックシート＞				
基準		レベル1	レベル2	レベル3
指標				
ア①	保育教材の種類、活用方法と心理的効果	保育教材の種類を知る。	さまざまな保育教材に関する知識を蓄積して、心理的効果について考える。	さまざまな保育教材の活用方法と心理的効果について理解を深める。
ア②	子どもの発達と心理に効果的な保育教材についての理解	子どもの発達と心理と保育教材の関係を知る。	保育教材研究を通して子どもの発達と心理についての考える。	さまざまな保育教材の活用方法と心理的効果について理解を深め、子どもの発達と心理についての考えを深める。
イ①	保育教材の作成と実践、課題の把握	保育教材を作成して、実践する。	保育教材を用いて実践することを通して、心理的効果のある保育教材について考える。	自ら効果的な保育教材を開発する力を養い、保育教材を用いて実践することを通して、主体的に課題を追求していくことができる。
ウ①	保育の中で活用される保育教材における問題と改善方法	保育の中で活用される保育教材における問題について知る。	保育の中で活用される保育教材における問題について知識を蓄える。	保育の中で活用される保育教材における問題について考察し、自分なりの考えをもつ。
エ①	海外の保育教材と我が国の保育教材の違いの理解	海外の保育教材について知る。	海外の保育教材について学ぶことで、我が国の保育教材についても理解する。	海外の保育教材と我が国の保育教材の相違点や類似点について理解を深める。
エ②	多文化共生社会の中で求められる保育教材の理解	さまざまな文化的背景をもつ子ども視点について考えてみる。	さまざまな文化的背景をもつ子どもに効果的な保育教材について考える。	多文化共生社会の中で求められる保育教材について理解を深める。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等				

科目ナンバー	D10502	要件	選択必修	授業形態	演習	対象学生	II A III C D
授業科目	子ども学ゼミ (社会的養護)						
実施期	通年	単位数	2単位	授業担当者	岩本 健一		
【科目の概要】							
社会的養護を必要とする子どもたちの余暇支援を想定して、小学生以上の年齢を対象とした「遊び」を研究する。文献による理論研究を行ったうえで、実証研究を行う。遊びを定義し、分類する中で、共通する要素の抽出を図る。そして、遊びの実体験を通じて、子どもたちに伝えていく方法を構築する。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	レポート作成や討議を通して、自分の考えをまとめて伝える表現力や教材開発力を身に付けている。						2-b
イ	自らが関心をもつ分野についての情報を的確に収集し、整理することができる。						3-a
ウ	自覚と責任をもち、メンバーと協力して研究し、成果を発表することができる。						4-a
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	オリエンテーション 担当紹介			月 日	シラバスを読んでおく。課題については、フィードバックを行う。		
2	研究 資料収集・文献学習・レポート作成			月 日	文献を読み、レポートにまとめる。		
3	研究 資料収集・文献学習・レポート作成			月 日	(0.5時間)		
4	レポート発表と討議1			月 日	レポート発表から、課題を見つける。		
5	レポート発表と討議2			月 日	(0.5時間)		
6	レポート発表と討議3			月 日	課題を討議して、解決する。(0.5時間)		
7	実証研究1-1 (討議の結果によるが、たとえば操る遊び)			月 日	今後の実証研究を計画する。(0.5時間)		
8	実証研究1-2			月 日	実施内容を決めて、準備する。(0.5時間)		
9	実証研究1-3			月 日	実際に体験して、課題を見つける。(0.5時間)		
10	実証研究1-4			月 日	課題を改善して、記録する。(0.5時間)		
11	実証研究1-4			月 日	作成した記録を発表する。(0.5時間)		
12	実証研究2-1 (討議の結果によるが、たとえば作る遊び)			月 日	実施内容を決めて、準備する。(0.5時間)		
13	実証研究2-2			月 日	実際に体験して、課題を見つける。(0.5時間)		
14	実証研究2-3			月 日	課題を改善して、記録する。(0.5時間)		
15	実証研究2-4			月 日	作成した記録を発表する。(0.5時間)		
16	実証研究3-1 (討議の結果によるが、たとえば探す遊び) (獲得を目指す力の確認)			月 日	実施内容を決めて、準備する。(0.5時間)		
17	実証研究3-2			月 日	実際に体験して、課題を見つける。(0.5時間)		
18	実証研究3-3			月 日	課題を改善して、記録する。(0.5時間)		
19	実証研究3-4			月 日	作成した記録を発表する。(0.5時間)		
20	実証研究4-1 (討議の結果によるが、たとえば競う遊び)			月 日	実施内容を決めて、準備する。(0.5時間)		
21	実証研究4-2			月 日	実際に体験して、課題を見つける。(0.5時間)		
22	実証研究4-3			月 日	課題を改善して、記録する。(0.5時間)		
23	実証研究4-4			月 日	作成した記録を発表する。(0.5時間)		
24	フェスティバル準備 内容検討			月 日	担当に分かれてフェスティバルの準備をする。		
25	フェスティバル準備 資料作成			月 日			
26	フェスティバル発表 展示作成			月 日	成果を分かりやすく発表する。(0.5時間)		
27	フェスティバル発表 反省会、ゼミ発表会の準備			月 日	ゼミ発表会の準備をする。		
28	ゼミ発表会 準備			月 日			
29	ゼミ発表会 リハーサル			月 日	成果を分かりやすく発表する。(0.5時間)		
30	ゼミ発表会			月 日	ゼミ成果のまとめ (0.5時間)		
31	研究成果冊子作成・ゼミ総括			月 日			
【教科書・テキスト】 参考資料を適宜配付する。				【成績評価の方法】 平常点 (提出物、グループ作業の成果) 40% 発表60%			
【参考書・教材】							
【履修要件及び履修上の注意事項】 社会的養護や学齢児に興味があり、積極的に取り組み、メンバーと協力できること。 児童養護施設のボランティア活動などに参加できること。							
【履修上の遵守事項】							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先: N5岩本研究室 オフィスアワー:							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア ①	関心のあるテーマについての基礎的な知識		関心のあるテーマを決め、主体的に学ぼうとしている。	関心のあるテーマについて、基礎的な知識を身に付けている。	関心のあるテーマについて理解を深め、他者にも説明できる。
ア ②	他のメンバーが関心を持つテーマについての知識		他のメンバーの研究テーマに対して関心をもつ。	他のメンバーのテーマについて、基礎的な知識を理解している。	他のメンバーのテーマについて理解を深め、説明できる。
イ ①	関心のあるテーマについて調べ、レポートにまとめて発表		関心のあるテーマについて調べることができる。	関心のあるテーマをレポートにまとめることができる。	関心のあるテーマをレポートにまとめ、わかりやすく発表することができる。
イ ②	グループ討議についての能力		他のメンバーの発表に対して関心をもって聞くことができる。	他のメンバーの発表を聞き、感想や意見を言うことができる。	他のメンバーの発表を聞き、討議を深める意見や質問をすることができる。
ウ ①	グループ活動において他のメンバーと協力し、目的の達成		グループ活動において他のメンバーと協力できる。	目標達成に向けて、メンバーと相互に協力できる。	メンバーと相互に協力して目標を達成するだけでなく、グループそのものを向上させようと努める。
ウ ②	発表に向けた計画的な取り組み		発表を行うためのスケジュールについて理解している。	発表を行うためのスケジュールを立て、計画性をもって対処することができる。	発表を行うためのスケジュールに基づき活動する中で、その都度課題の解決やスケジュールの修正を行うことができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					

科目ナンバー	D10502	要件	選択必修	授業形態	演習	対象学生	Ⅱ A III C D	
授業科目	子ども学ゼミ(文化)							
実施期	通年	単位数	2単位	授業担当者	恒岡 宗司			
【科目の概要】								
幼児期に培うべき食に関する知識やマナー、食習慣について個人テーマを設定して調べるとともに、得られた情報を「食育カルタ」として読み札や絵札に表す。制作したカルタは保育実践として子どもたちとともにカルタ遊びとして楽しむ。なお個人テーマは年度末にレポートとして各自でまとめる。								
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】	
ア	幼児期から始める食育としての内容、カルタの歴史、カルタ遊びの特性について理解している。						1-c	
イ	カルタの制作に当たっては、子どもが楽しめ喜べるような教材として表現できる。						2-d	
ウ	子どもとのカルタ遊びを通して、遊びの要素を取り入れた食育教材の在り方や遊びとしての楽しみ方を考えることができる。						3-d	
エ	カルタ遊びのもつ教育的価値や保育における手作り教材の発展性について興味や関心をもつ。						4-c	
【授業の内容】			【実施日】	【授業時間外学習の内容】				
1	ゼミの概要説明(カルタと食生活・食習慣・食育との接点)・ゼミ登録		月 日	カルタの歴史に関する書籍を探す。				
2	食生活・食習慣・食育をはじめカルタの歴史、カルタ遊びの特性等についての個人研究テーマの設定		月 日	食及び食育に関する書籍を探す。				
3	個人テーマについてのフィードバックと情報収集の方法について検討		月 日	カルタに関する情報をインターネットや書籍等で調べる。(2時間)				
4	カルタに描く内容の構想と工夫(食及び食育に関する観点整理)		月 日	カルタの作り方の情報を調べる。				
5	カルタの読み札の作成(1)(食と健康・食生活の観点からの項目検討)		月 日	自分の経験から事前に考えておく。				
6	カルタの読み札の作成(2)(食育と幼稚園教育要領の観点からの項目検討)		月 日	幼稚園教育要領の領域内容を確認する。(1時間)				
7	カルタの読み札の作成(3)(5歳児に理解できる言語表現への修正)		月 日	収集した情報を分野別に整理しておく。(1時間)				
8	カルタの読み札の作成(4)(読み札の完成と絵札の図案の検討)		月 日	読み札の言葉の改良を検討する。				
9	カルタ遊びの楽しさ要素の研究(1)(デザインと内容)		月 日	カルタのデザイン案を考える。(1時間)				
10	カルタ遊びの楽しさ要素の研究(2)(幼稚園教育要領からみた保育としての意義)		月 日	中間報告の発表内容を考える。(1時間)				
11	個人テーマに関する中間報告会(研究の概要とまとめ方の発表)		月 日	今後のレポートのまとめ方を考える。				
12	カルタの絵札の原案作成(1)(デザインとレイアウトの検討)		月 日	カルタ遊びとしての構想・展開を考える。				
13	カルタの絵札の原案作成(2)(5歳児に分かる表現の工夫) [獲得を目指す力の確認]		月 日	自分の分担作業の進行予定を考える。				
14	カルタの絵札の原案作成		月 日	絵札のデザインを考える。(1時間)				
15	カルタの絵札の制作活動(1)(「あ」～「ん」の下書き)		月 日	作業分担と協力体制を考える。				
16	カルタの絵札の制作活動(2)(「あ」～「そ」の着色)		月 日	絵札の内容の原案を考える。(1時間)				
17	カルタの絵札の制作活動(3)(「た」～「ほ」の着色)		月 日	全体の工夫点を考える。				
18	カルタの絵札の制作活動(4)(「ま」～「ん」の着色)		月 日	全体の改善点を考える。				
19	個人研究レポートのパソコンでの作成(1)		月 日	レポートの骨子を考える。(1時間)				
20	個人研究レポートのパソコンでの作成(2)		月 日	レポートの未完成分は家で仕上げる。(2時間)				
21	個人研究レポート発表、フィードバックと相互評価		月 日	発表内容や発表の仕方を振り返る。(0.5時間)				
22	幼稚園でのカルタ遊び体験(奈良学園幼稚園予定)		月 日	体験の感想をまとめる。(0.5時間)				
23	フェスティバル展示の準備(1)(内容についての構想検討)		月 日	掲示物や紹介文の内容を考える。(1時間)				
24	フェスティバル展示の準備(2)(掲示物の作成及び展示の仕方の検討)(フェスティバル発表)		月 日	想定質問への回答を考える。(0.5時間)				
25	個人研究レポートの作成・完成		月 日	レポート発表の内容を考える。(1時間)				
26	個人研究レポートの発表会		月 日	報告会の内容の構想を考える。(1時間)				
27	ゼミ発表会での報告内容・方法についての検討		月 日	パワーポイントの内容を考える。(1時間)				
28	ゼミ発表会での報告内容作成(パワーポイント作成)		月 日	報告内容の構想と下書きを考える。(1時間)				
29	ゼミ発表会での報告の仕方の練習(説明メモの作成と発表練習)		月 日	説明メモの内容を考える。(1時間)				
30	ゼミ活動を振り返って(意見交換)		月 日					
31			月 日					
【教科書・テキスト】			【成績評価の方法】					
			課題研究の内容と発表	30%	制作物	30%	ゼミ活動の参加意欲・態度	40%
【参考書・教材】								
適宜資料を配付する。ゼミ活動で参考となる本に、科目で使用する「子どもの食と栄養」のテキストがある。								
【履修要件及び履修上の注意事項】								
制作にかかる道具等は、各自で準備して持参すること。なお、フェスティバル及びゼミ発表会への出席を義務付ける。								
【履修上の遵守事項】								
【連絡先・オフィスアワー】								
連絡先: N6 (恒岡) 研究室			オフィスアワー:					

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア①	カルタの歴史、カルタ遊びの文化、正月遊び、文化的価値		子どもの正月遊びとしてのカルタの楽しさを意味付けできる。	カルタの歴史についての概要を述べることができる。	カルタ遊びの文化的価値について、歴史の観点から述べるができる。
ア②	食習慣、食生活とマナー、エチケット、食育基本法、幼稚園教育要領		食育として考えられる内容を食育基本法から5つ程度例を挙げて述べるができる。	食生活に関するマナー、エチケットの観点から、10程度の内容をまとめることができる。	食と健康、食習慣の重要性について幼稚園教育要領に照らして説明することができる。
イ①	カルタ作りでのレイアウトと表現内容、描画方法		絵札のレイアウトを子どもに受け入れられる表現内容で制作することができる。	食育の内容を盛り込んだ読み札を、5歳児に理解できる表現として言葉を考えることができる。	読み札にふさわしい絵札の構図について、一体的に検討し描画方法を考えて提案することができる。
イ②	カルタの構成、遊び方、カルタ遊びでの教育的配慮、食育カルタ		カルタ遊びでは、子どもの動きなどを考えてサイズや遊びスペースを決めることができる。	絵札の図案や読み札の言葉は、子どもが楽しめる要素を盛り込んで制作することができる。	教育的配慮としての学びの要素を考えて食育カルタを制作することができる。
ウ①	カルタ遊びでの環境、ルール変更の想定		カルタ遊びを保育に生かしていくるように、所要時間と活動場所を適切に考えることができる。	カルタの遊び方について、子どもからの柔軟なルール変更を想定して複数のパターンを考えることができる。	カルタ遊びでの子どもの反応を確かめ、保育者からの働きかけ方を考えることができる。
ウ②	カルタ遊びのルールと説明の仕方、トラブルでの対応		子どもたちに喜んでもらえることを想定した遊び方やルールの提案を考えることができる。	カルタ遊びのルールについて、子どもたちに必要性を気付かせる説明の仕方を考えて提案できる。	カルタ遊びでのトラブルを想定した場面での適切な対応の仕方を考えている。
エ①	カルタ作りの工夫点、遊びとつなぐ教材開発、手作り教材のよさや工夫点		カルタ作りを通して、手作り教材のよさや工夫点を実感している。	カルタ作りを通して、遊びとつなぐ発展性のある手作り教材の開発に興味をもっている。	遊びの手作り教材について、どのような教材があるかを意欲的に調べようとしている。
エ②	手作り教材による様々な遊び方、手作り教材の魅力		カルタ遊びでの子どもの反応を確かめながら、保育の展開をさらに工夫しようとしている。	手作り教材を使った保育の柔軟性について、書籍等から事例から見つけようとしている。	手作り教材の魅力が実感でき、就職後もさらに探求しようとする意欲的な態度をもっている。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					



科目ナンバー	D10502	要件	選択必修	授業形態	演習	対象学生	II A III C D
授業科目	子ども学ゼミ(オペレッタ)						
実施期	通年	単位数	2単位	授業担当者	小川 純子 ・ 林 悠子		
【科目の概要】							
オペレッタの創作を通して、総合的な表現力を学ぶ。また、幼児教育における音楽・身体表現の知識を深め、造形表現も同時に学ぶ。さらに自らが舞台に立ち、表現活動に必要な舞台創作や表現技法について学ぶ。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	幼児教育における音楽・身体表現を理解し、オペレッタをはじめとした舞台表現の創作方法を習得している。						1-c
イ	歌やダンスなどを通して、さまざまな表現活動の楽しさを伝えることができる。						2-d
ウ	舞台発表を目指して作品を創り上げ発表することについて、計画的に考えることができる。						3-d
エ	積極的にアイデアを出しあい、協力しながら作品を創り上げようとしている。						4-b
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	ゼミ全体説明会（各ゼミの概要説明および登録）			月 日	シラバスをよく読んでおくこと。		
2	幼児オペレッタ及び幼児における音楽・身体表現についての理解			月 日	幼児における音楽・身体表現の身近な例を探す。		
3	オペレッタや劇表現における音楽・身体表現についての理解 ちびっこ広場見学 題材探し①：グループ			月 日	図書館等で題材を探す。（1時間）		
4	題材探し②：全体 題材決定			月 日	決定した題材に関する理解を深める。		
5	脚本製作①：全体 プロット作り			月 日	決定した題材に関する理解を深める。		
6	脚本製作②：グループ			月 日	脚本製作の基本を復習し、文書の打ち込みに慣れる。		
7	脚本製作③：各場面すりあわせ			月 日	脚本の整合性等をよく吟味する。		
8	脚本完成 配役・係決め			月 日	完成した脚本をよく読み込む。		
9	セリフ読み合わせ①			月 日	完成した脚本をよく読み込む。		
10	セリフ読み合わせ② 大道具・小道具設計図作り 衣装原案作り			月 日	脚本から必要な配役や係について理解を深める。		
11	セリフ読み合わせ③ 大道具・小道具設計図作り 衣装原案作り			月 日	自身の役や係を中心に脚本を読み込む。（1時間）		
12	セリフ読み合わせ④ 台本手直し 大道具作り ダンス・音楽選び			月 日	手直した脚本をよく読み込む。（1時間）		
13	セリフ読み合わせ⑤ 大道具作り ダンス・音楽選び			月 日	完成した脚本をよく読み込み、セリフ覚えに努める。		
14	セリフ読み合わせ⑥ 大道具作り ダンス・音楽CD作成			月 日	場面にふさわしい音楽を探す。		
15	セリフ読み合わせ⑦ 大道具作り ダンス・音楽CD作成（獲得を目指す力の確認）			月 日	探してきた音楽をよく聞きこむ。		
16	立ち稽古① ダンス創作・小道具作り			月 日	セリフを覚え、ふさわしいダンスを創作する。		
17	立ち稽古② ダンス創作・小道具作り			月 日	セリフを覚え、ダンスを練習する。（1時間）		
18	立ち稽古③ ダンス創作・小道具作り			月 日	セリフを覚え、ダンスをしっかりと覚え込む。		
19	立ち稽古④ ダンス創作・衣装集め			月 日	セリフを覚え、イメージに合った衣装を探す。		
20	立ち稽古⑤ ダンス創作・衣装作成・背景下絵			月 日	セリフや動きを覚え、手作りする衣装の材料を用意する。		
21	立ち稽古⑥ ダンス創作・衣装作成・背景制作			月 日	セリフや動きを覚え、衣装を作成する。（1時間）		
22	立ち稽古⑦ 背景制作			月 日	セリフや動きを覚え、イメージに合った背景を製作する。		
23	立ち稽古⑧ 舞台練習			月 日	セリフや動きを覚え、舞台に合わせた動きを考える。		
24	立ち稽古⑨ 舞台練習			月 日	舞台練習による変更点などを確認する。		
25	リハーサル			月 日	舞台練習による変更点などを確認する。		
26	フェスティバル発表			月 日	練習のふり返しをして、舞台に備える。		
27	ちびっこ広場出演（発表）			月 日	ゼミ発表の資料を作成する。		
28	ゼミ発表会準備 研究成果冊子作成			月 日	ゼミ発表の資料を作成する。（1時間）		
29	ゼミ発表会リハーサル（発表練習）			月 日	ゼミ発表のプレゼンを練習する。		
30	ゼミ発表会（発表）・ゼミ総括とフィードバック			月 日	ゼミ発表会の振り返りをする。		
【教科書・テキスト】 参考資料を適宜配付する。				【成績評価の方法】 平常点[出席状況・授業態度]：50% 発表内容：40% レポート：10%			
【参考書・教材】 参考資料を適宜配付する。							
【履修要件及び履修上の注意事項】 フェスティバルリハーサル、フェスティバル、1月の子ども学ゼミ報告会に出席すること。							
【履修上の遵守事項】 当該授業受講にあたり、15分以上遅刻をした学生は欠席扱いとする。 原則的に欠席を4回以上した学生は単位認定を行わない。							
【連絡先・オフィスアワー】							
連絡先： 1号館2階 N18 小川 研究室 3号館2階 A3 林 研究室				オフィスアワー：			

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア①	幼児教育における音楽・身体表現方法の獲得	幼児教育における音楽・身体表現の役割や表現の種類を知っている。	幼児教育における音楽・身体表現の役割や表現の種類を知り、自らその表現を行うことができる。	幼児教育における音楽・身体表現の役割や表現の種類を知り、目的に応じた表現の指導を幼児に行うことができる。	
ア②	音楽・身体表現を用いた舞台の創作	舞台表現の基礎的な創作方法を知っている。	舞台表現の基礎的な創作方法を用いて、作品創作ができる。	舞台表現の基礎的な創作方法を応用し、実際に保育や幼児教育の現場で作品創作ができる。	
イ①	音楽や動きを用いて楽しむ表現活動	音楽・身体表現における、音楽や動きの要素について知っている。	さまざまな音楽や動きを用いて、自ら音楽・身体表現に親しむことができる。	発育発達に応じた音楽や動きを用いて、幼児とともに楽しめるような音楽・身体表現ができる。	
ウ①	舞台発表に向けた計画的な取り組み	舞台発表を行うためのスケジュールについて理解している。	舞台発表を行うためのスケジュールを立て、計画性を持って対処することができる。	舞台発表を行うためのスケジュールに基づき活動する中で、その都度課題の解決やスケジュールの修正を行うことができる。	
エ①	表現活動におけるアイデアの具現化	表現活動を行う中で、課題を理解することができる	表現活動を行う中で、課題の解決に向けて情報収集をしたり意見を出しあうことができる。	表現活動において臨機応変に課題に対処し、アイデアをまとめることができる。	
エ②	協働による作品の創作	舞台創作に向けて受講生同士で適切なコミュニケーションが図れる。	協働する中で自身の役割を理解し、互いを尊重しながら舞台創作が行える。	舞台創作を通して、集団において自身の役割と責任を果たすことができる。	
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					

科目ナンバー	D10502	要件	選択必修	授業形態	演習	対象学生	II A III C D
授業科目	子ども学ゼミ(保育臨床)						
実施期	通年	単位数	2単位	授業担当者	高橋 千香子		
<b>【科目の概要】</b> 子どもの発達や心理、保護者・家庭支援、保育者の心理的課題等、保育臨床に関する事象のなかで、自らの関心のあるテーマについて探究し、グループ討議等を通して学びを深める。後期はグループで一つのテーマを決め、調査研究等を行う。い、心理学的な視点による思考力を身に付けるとともに主体性、協調性を培うことを目的とする。							
<b>【この科目を通して獲得を目指す力】</b>							<b>【関連DP】</b>
ア	臨床心理的事象のなかで、自らが関心をもつ事象についての基礎的な知識を身に付けている。						1-e
イ	レポート作成やグループ討議を通して自分の考えをまとめ、伝えることができるとともに、相手の話を聞くことができる。						2-a
ウ	心理学的な視点や考え方に関心を持ち、将来の保育相談等の実践に生かすことができる。						3-d
エ	グループにおいて主体的に活動し、他のメンバーと相互に協力して目的を達成できる。						4-b
<b>【授業の内容】</b>				<b>【実施日】</b>	<b>【授業時間外学習の内容】</b>		
1	ゼミの概要説明、ゼミ登録			月 日	自己紹介でゼミを選択した理由を話せるよう考えておく。		
2	年間計画、自己紹介			月 日	研究したいテーマを考え始める。		
3	臨床心理学について学ぶ①(保育臨床とは 子どもの心・発達・健康とは)			月 日	保育の心理学等での学習(発達、カウンセリング等)について復習する。(1時間)		
4	臨床心理学について学ぶ②(カウンセリングのロールプレイ)			月 日			
5	各自のテーマ決定・研究計画を立てる			月 日	自分のテーマを考える。		
6	各自のテーマについての文献を調べ、読む。			月 日	文献を読み、レポートにまとめて考察する。(3時間)		
7	各自のテーマについての文献を読み、レポートにまとめる。			月 日			
8	レポート発表と討議(1回目)			月 日	発表後は討議した内容を振り返り、まとめておく。他のメンバーのテーマにも関心を持ち、調べる。(各1時間)		
9	レポート発表と討議(2回目)			月 日			
10	レポート発表と討議(3回目)			月 日			
11	レポート発表の振り返りとまとめ			月 日	活動を記録し、振り返り、考察を深めておく。(各1時間)		
12	外部講師の話を聞く、あるいは施設見学(予定)			月 日			
13	前回の活動についてレポートにまとめ、グループ討議			月 日	決定した全体テーマについて調べ、考察を深める。(各1時間)		
14	前期の活動の振り返りと総括(フィードバック)			月 日			
15	全体テーマ決定のためのグループ討議			月 日			
16	全体テーマに向けて研究計画を立てる			月 日			
17	グループ研究を深める(調査など)①			月 日			
18	グループ研究を深める(調査など)②			月 日			
19	グループ研究を深める(調査など)③			月 日			
20	グループ研究を深める(調査など)④			月 日			
21	グループ研究を深める(調査など)⑤			月 日			
22	グループ研究を深める(調査など)⑥			月 日			
23	グループ研究を深める(調査など)⑦			月 日			
24	グループ研究のまとめ、ゼミ内での発表			月 日	ゼミ報告会の準備をする。(各1時間)		
25	ゼミ報告会に向けての準備①(資料、パワーポイント、発表原稿作成)			月 日			
26	ゼミ報告会に向けての準備②(資料・パワーポイント・発表原稿作成)			月 日			
27	ゼミ報告会に向けての準備③(前日予行練習)			月 日	自分自身の活動を振り返っておく。(1時間)		
28	ゼミ報告会の振り返り、研究成果冊子作成①			月 日			
29	研究成果冊子作成②			月 日	冊子作成に必要なプリントや資料を集める。(1時間)		
30	全体の振り返りと総括(フィードバック)			月 日	保育者としてゼミでの経験をどう生かしているかを考える。		
31				月 日			
<b>【教科書・テキスト】</b> プリント教材を使用する。				<b>【成績評価の方法】</b> 授業への参加意欲、発言 30%、レポート内容 30% 発表会等への積極的関与・態度 40%			
<b>【参考書・教材】</b> 「保育に生かす心理臨床」 馬場禮子・青木紀久代編著 ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。							
<b>【履修要件及び履修上の注意事項】</b> 心理学に関心があり、自らの研究テーマを設定し、取り組むことができること。また、メンバーと協力して主体的かつ協力的に研究をすすめることができること。子ども学ゼミ報告会に出席すること。							
<b>【履修上の遵守事項】</b> グループ活動であることを自覚し、無断欠席をしないこと。							
<b>【連絡先・オフィスアワー】</b> 連絡先: N3研究室、takach25@narabunka.ac.jp オフィスアワー:							

〈チェックシート〉

指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア①	保育臨床についての基礎知識		保育臨床について関心をもっている。	発達心理、カウンセリング等の心理的援助、子育て支援等、保育臨床のベースとなる臨床心理学的知識を身に付けようとしている。	保育臨床について理解を深め、他者に説明できる。
ア②	自ら関心のあるテーマについての心理学的知識		自ら関心のあるテーマを決め、主体的に学ぼうとしている。	自ら関心のあるテーマについて、基礎的な知識を理解している。	自ら関心のあるテーマについての理解を深め、他者に分かりやすく説明できる。
イ①	レポート作成能力及び発表能力		関心のあるテーマについて調べることができる。	関心のあるテーマをレポートにまとめることができる。	関心のあるテーマをレポートにまとめ、分かりやすく発表することができる。
イ②	グループ討議についての能力		他のメンバーの発表に対して関心をもって聞くことができる。	他のメンバーの発表を聞き、感想や意見を言うことができる。	他のメンバーの発表を聞き、討議を深める意見や質問をすることができる。
ウ	心理学的な知識を保育実践に生かす力		心理学的な視点で保育をとらえ、対象者の立場で考えることができる。	対象者の立場で考え、保育相談等において有効な支援の方法を考えることができる。	相談者の立場で有効な支援の方法を考え、実践できる。
エ	グループ活動における主体性と協調性及び目的達成能力		目標達成に向けてメンバーと相互に協力し、計画・立案ができる。	グループ活動において主体的に行動し、他のメンバーと協力して目的を達成しようとしている。	メンバーと相互に協力して目的を達成するだけでなく、グループそのものを向上させようと努めている。

この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等